

理事長	リデル ホーム 施設長	ライト ホーム 施設長	ノット ホーム 施設長	事務長	管理部長	委員会 担当

作成日： 令和4年10月21日

作成者： 豊田 淑美 印

## 褥瘡予防対策委員会報告

出席者： 鶴野 安本 豊田淑 松本 多野 古川 船崎 潮谷 根来

○ケープ（ミタカ）による勉強会（ちこすにて）

1、仰臥位でのクッションの当て方

**上半身（RM5のクッションを使用）**

- ・重力のかかる隙間にクッションをいれる。筋緊張を和らげる。
- ・平行にいれるのではなく対角線にクッションをいれると広い面で体を支える事ができる。
- ・背中だけではなく二の腕の下にもクッションが入っているかの確認をする。

**下半身（RM1のクッションを使用）**

- ・クッションの真ん中のスリット部分を上にあげるとクッションがよっていくため内旋や外旋予防としてクッションが保持してくれる。
- ・クッションをあてる前の圧力測定器での数値が90近くあったが、クッションをあてた状態で31まで圧力が下がった。

測定器を用いた場合、40以下は褥瘡のリスクは低い、50以上でリスクが高くなる。

クッションのあてる位置を考えると圧は下がる。

尖足予防として足底にピローなどの支持面を提供すること必要だが、24時間365日あてたままにするのではなく、日中はあてて夜間はフリーにする。

- ・仙骨・尾骨・座骨の部分にも小さいクッションをいれると体圧分散しやすくなる。
- 足や背中にクッションをいれておしまいではなく、縦・横方向から見て重さがどこに移動しているのか身体のラインがねじれてないか確認を行う

- ・膝下にクッションをいれると可動域を止めてしまうので座骨側にクッションをいれる

2、側臥位のクッションの当て方（RM2、RM1のクッションを使用）

- ・クッションを当てる側に5cmから10cm移動する。
- ・30度側臥位（骨の突出がない広い面積の殿筋で体重をうけるように30度の側臥位にすること）ただし個人差はあるのであくまで目安とする。
- ・向きたい方向に体の重さを意図的に作ると簡単に体を向けることができる。
- ・クッションを当てた際に骨盤、胸郭、縦のラインがあっているか確認する

コメント（医師）

次回会議日程： 令和4年 11月 22日（火） 時間